令和５年度　都立農芸高等学校全日制課程　学校運営連絡協議会実施報告書

１　組織
（１）都立農芸高等学校　学校運営連絡協議会（全日制課程）
（２）事務局の構成　主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、教務部員１名　計２名
（３）内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導主任)、農場主任　主幹教諭(３学年主任)　計８名
（４）協議委員の構成（氏名の掲載も可）
交友会会長代理、東京都馬術連盟理事長（大学コーチ兼任)、ＰＴＡ会長、井荻中学校長、三谷小学校長、今川町信和会会長、杉並区みどり公園課長　計７名
２　令和５年度学校運営連絡協議会の概要
（１）学校運営連絡協議会（第１～３回）の開催日時、出席者、内容、その他
第１回　令和５年７月２６日（水曜）　協議委員７名、内部委員８名　書面開催
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題等
本校の現状と課題等説明、意見交換
第２回　令和５年１１月２９日（水曜）協議委員７名、内部委員８名　書面開催
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、本校の現状と課題等説明、意見交換学校評価の内容検討、協議等
第３回　令和６年３月２１日（木曜）　協議委員７名、内部委員８名　書面開催
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議等
（２）評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第１回　令和５年７月２６日（水曜）協議委員７名、内部委員８名　書面開催
評価委員の選出、今年度の学校評価の実施に向けた検討
学校評価の基本方針の確認等
第２回　令和５年１１月２９日（火曜）協議委員７名、内部委員８名　書面開催
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
今年度の学校評価の実施に向けた検討等
第３回　令和６年３月２１日（木曜）協議委員７名、内部委員８名　書面開催
評価報告書（原案）の検討等
３ 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）
（１）アンケート調査の実施時期・対象・規模
・１２月　全校生徒　　対象：３８０人　　回収：３１１人　　回収率：８１．８％
・１２月　保護者全員　　対象：３８０人　　回収：　９２人　　回収率：２４．２％
・１２月　地域・住民　　対象：　　７人　　回収：　　４人　　回収率：５７．１％
・１２月　教職員　　対象：　５０人　　回収：　３３人　　回収率：６６．０％
※コロナ禍のため、アンケート回収を促すことができなかった。
（２）評価結果の概要　（校長や学校全般への意見・提言内容）
・生徒保護者ともに授業はわかりやすく(８３％、８２％)、農業に関する知識や技術が確実に身に付いている(９４％、９３％)と感じている。また本校で学ぶことに満足している。(８３％、９１％)。おおむね本校の教員の授業について満足している。
・生徒保護者共にルールやマナーをしっかりと守っていると感じている。(７０％、８０％)昨年度より生徒５％減、保護者５％増であった。
・生徒保護者は、自分の進路について考える機会が多く用意されている。(９０％、８５％)となり、生徒５％増でより支持を得ている。
（３）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
・昨年度同様、「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科

担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うこと等が大切である。また、心身の健康を向上させる取り組みを積極的に取り入れるべきである

・地域や小中学校との交流等を進めるとともに農芸高校の教育内容を知っていただくためにホームページやX(旧Twitter)などをさらに活用した活動を行うべきである。

４　学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（１）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・昨年度以上に地域や小中学校との交流する機会を増やし、教育内容を広く知っていただく取組が必要であると認識できた。

（２）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・近隣の住民は、教育内容をより一層知りたいと望んでいることが分かった。

・より適正な評価を行うためには、協議委員や地域に対して、もっと情報提供すべきである。

５　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（１）学校運営

・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。

・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

・学期ごとに校内研修会を実施する。

（２）学習指導

・分かる授業を目指し、ICT活用等指導内容・方法・評価に関する研修に努める。

（３）特別活動

・学校生活を充実させるための集団行動や地域活性に参加し、人格の形成を養う。

（４）生活指導

・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせるため、時間厳守、服装、挨拶等の指導を徹底する。

（５）進路指導

・計画的・継続的なキャリア教育を行い、多様化する進路希望を実現させる。

（６）健康・安全

・薬物乱用防止等のセイフティ教室や「安全教育プログラム」等を活用し、交通安全指導等を徹底する。

６　「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（１）協議委員人数　７人

（２）学校が良くなった（多少含）と答えた協議委員の人数　５人

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	4	1			1	

７　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

・参加なし

８　その他

・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。

・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。